

# 第3回 学校力育成会議

協議テーマ「地域・家庭と協力して富士宮の子どもたちを育てるには」

富士宮市総合福祉会館安藤記念ホール  
平成20年12月7日(日)  
午後1時30分から午後3時45分まで

アトラクション(富士根南中学校吹奏楽部) 午後1時10分から午後1時20分まで  
・クラリネット8重奏 バルトーク作曲 「ルーマニア民族舞曲」  
・サクソ5重奏 天野正道作曲 「セカンドバトル」  
・金管9重奏 スザート作曲 「スザートセレクション」

教育長挨拶

## 「変化が常態の時代であること」について

この3月、学校で勉強することの基準=学習指導要領の公表(平23小・24中)をした。社会の激しい変化に主体的に対応していけるように、子どもたちの未来のために「生きる力」を育むことが教育の重要な課題である。また、地方分権の時代である。益々加速するだろう。

## 「富士宮の学校力育成会議」について

このような背景をもとに、今年度より「富士宮の学校力育成会議」を立ち上げた。教育は変化の中にも、本質として不易なもの、変化に対応していくものがある。このようなことを踏まえ、いろいろなお立場の方々に「富士宮の学校力」はどうあったらよいかご意見を伺い、今後の富士宮の教育行政方針に生かしていきたいと考えている。座長の天笠先生は、先程の学習指導要領のもとを考える中央教育審議会の委員で、千葉大学教授。富士宮では10年間お世話になっている方で、富士宮のことをよくご存じの方である。

## 「富士宮の学校力」の意味について

さて、「富士宮の学校力」の意味を問われる。実はこのことを育成会議で考えてもらう。しかし、言葉の意味合いは、「学校として発揮する力」、「学校の教育力」と言ったらいいでしょうか。お願いしている内容は、・望ましい学校の姿 ・学校と家庭・地域の協力 ・子ども達に身につけさせたいこと ・教職員の資質向上等 4つの視点からお願いしている。

## 「家庭・地域の協力」について

その中で、今こそ、「家庭・地域の協力があってこそ学校力が発揮される」このことが、重要な課題であると思っている。富士宮の教育は最高にすばらしくなると思う。この育成会議は、多くの市民の皆様に関心を一層持っていただくことも大きなねらいと考えている。是非、今日は会場の皆様からも多くのご意見をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

シンポジウム

P:パネラー I:委員 F:フロアーからの意見

## 1 地域に埋もれている人材を掘り起こし、有効に生かすことが必要である。

富士山を核にして、人材が発揮されるようなヒューマンセンターが必要ではないか。(P)(I)  
絵本の読み聞かせなど、一人でも多くのお年寄りが学校に行ける仕組みを考えてほしい。(F)  
学校の応援団を受け入れるために、教室の中に地域の方用の座席を作ってほしい。(I)

学校に「地域主任」を作り地域との接点になれば、地域の人材が生かせるのではないか。( F )  
PTA 活動などに、もっと若い母親や父親の応援を得られるようにしたい。( P )( I )  
学校力を高めるには、先生や地域、子どもが一緒になって動くことが大事である。( F )

## 2 時代の変化に応じた学校の情報を、地域・保護者と共有する必要がある。

法の改正や時数の増加が何をめざしているか、教育用語等を丁寧に説明してほしい。( P )  
各学校のめざす言語活動について説明し、保護者と共有する場が必要ではないか。( P )  
授業参観の目的や内容をまとめたプリントがあると、家で授業のフォローアップができる。( P )  
学校教育課が学校評議員制度の「行動計画、チェック、行動」の仕組みを作ったらどうか。地域・家庭と連携して活性化していくことができるのではないか。( P )  
食育など、家庭と学校が同一歩調で取り組むことで、子どもの活性化につながる。( I )

## 3 地域や大人が、子どもが育つ環境作りを推進していく必要性がある。

富士宮の生活や学習の手引き(宿題や読書、勉強の仕方の例)を作って実践したらどうか。( P )  
幼稚園から両親が関わりながら子どもを育てるマニュアルを考えていくとよい。( I )  
子ども主体で、「学校によさ自慢大会」を行ったらどうか。自信と誇りにつながる。( P )  
携帯電話やインターネットなどの使い方等、親子の間にルール化することが大事である。( P )  
第3日曜日の「食卓の日」にはテレビをつけず、「家族団らんの日」としたらどうか。( P )  
地域のボランティア活動に参加するように、学校が義務づけたり推奨したりするとよい。( P )  
子どもが生きるために必要な言葉の力が育つ環境を大人が作っていく必要がある。( I )  
授業で身につけたことが生きて働くように、地域に発信、企画実践する場を作りたい。( P )  
全ての原点は家庭である。団塊の世代の力をお借りして家庭から変える必要がある。( F )  
力のついた子どもの育ちを共有し、地域が子どもを応援していくことが求められている。( I )

### <天笠座長より>

学習指導要領が変わる変化の時代、外側に位置している保護者や地域に対して、学校の先生がいろいろな情報を丁寧に説明する必要がある。先生達がんばることで、子ども達が21世紀に必要な力を獲得していく。そのためには、地域の支援が大切である。バージョンアップしている富士山学習の成果も、地域の人々の理解と存在があってこそのものである。

富士宮のめざす子ども像をどう描いていくかが重要になる。自信や誇りを育てることが基盤となる。そのために何が必要か、基盤作りとしての心の安心、安定をどう作っていくか考える必要がある。0才から15才までの子どもたちをどう育てていくか。幼、小、中をつないでいく感覚をどう結びつけていくかという課題が出てくる。子ども参加のシンポジウムを企画することも一つの例である。

先生と共に一緒に汗をかこうという所にどこまで持って行けるかがテーマである。学校力を高めるために、保護者も地域も共に価値観を共有し、知恵を出しあうことが大切である。その力の結集が子ども達を育てていく。それぞれの立場で、地域の人が学校にもっとものを言い、学校が受け止めていく関係作りを作っていくとよい。